

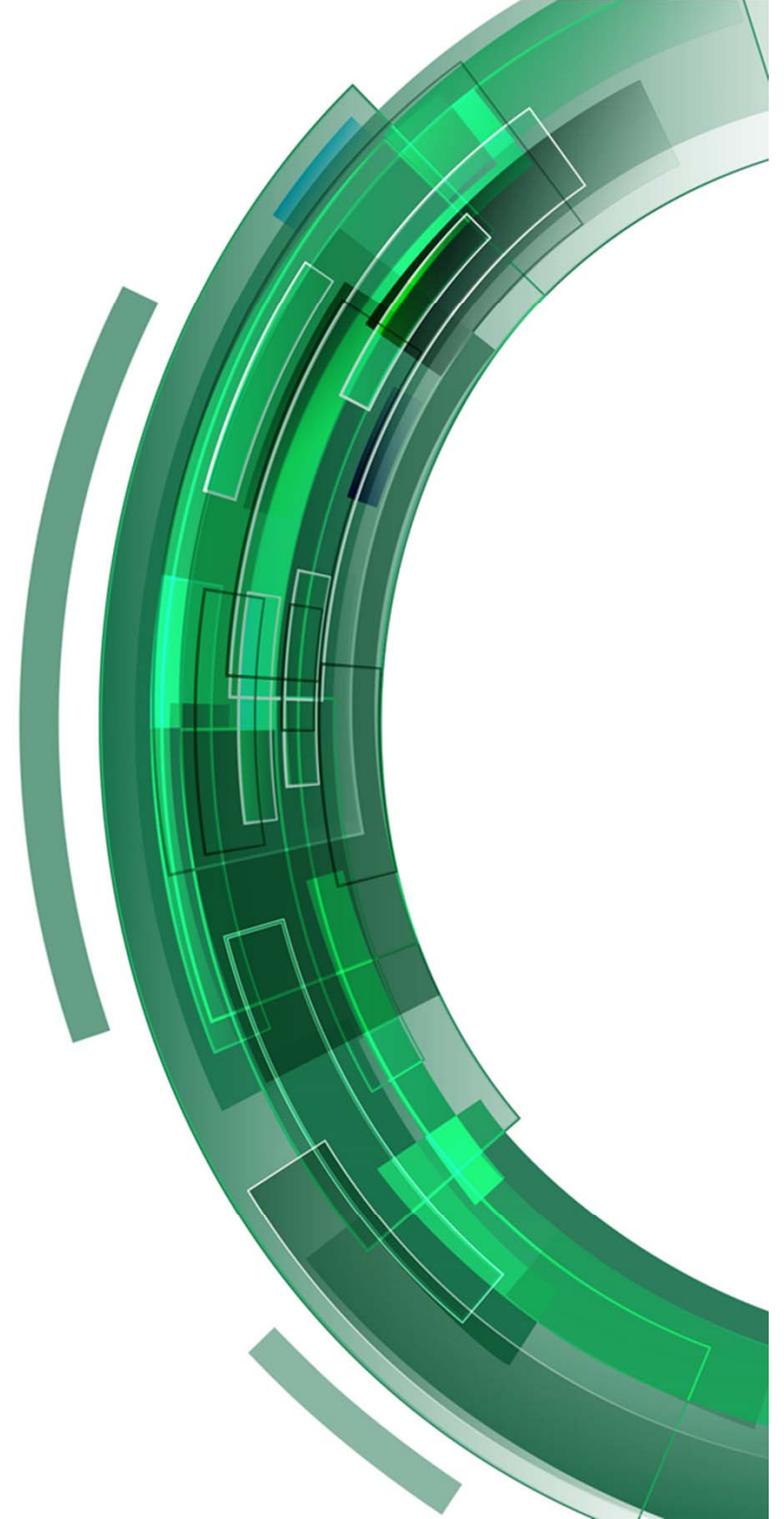
2022年3月期 第2四半期
決算説明会

2021年 12月17日 (金)



あつい心で未来を創ります

中部鋼板株式会社



中部鋼板(株)の現状と今後	2
’22年3月期 第2四半期決算	22
’22年3月期 通期見通し	29

【本資料お取扱上のご注意】

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。

また本資料に含まれる将来の計画値、予測値等は説明会時点の入手できる情報に基づいて判断したものであり、不確定要素を含んでおります。

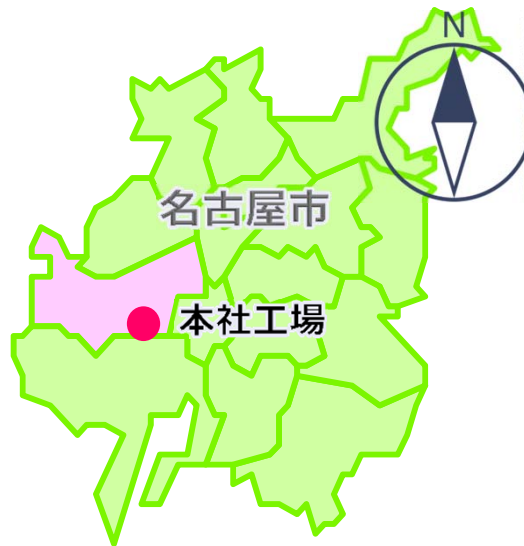
従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願いいたします。また本資料を利用した結果として生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

中部鋼板(株)の現状と今後

§ 1 立地環境について

中部鋼板は名古屋市の市街地に立地

愛知県は日本の「もの造り」の中心
原料調達、製品出荷に有利なポジション

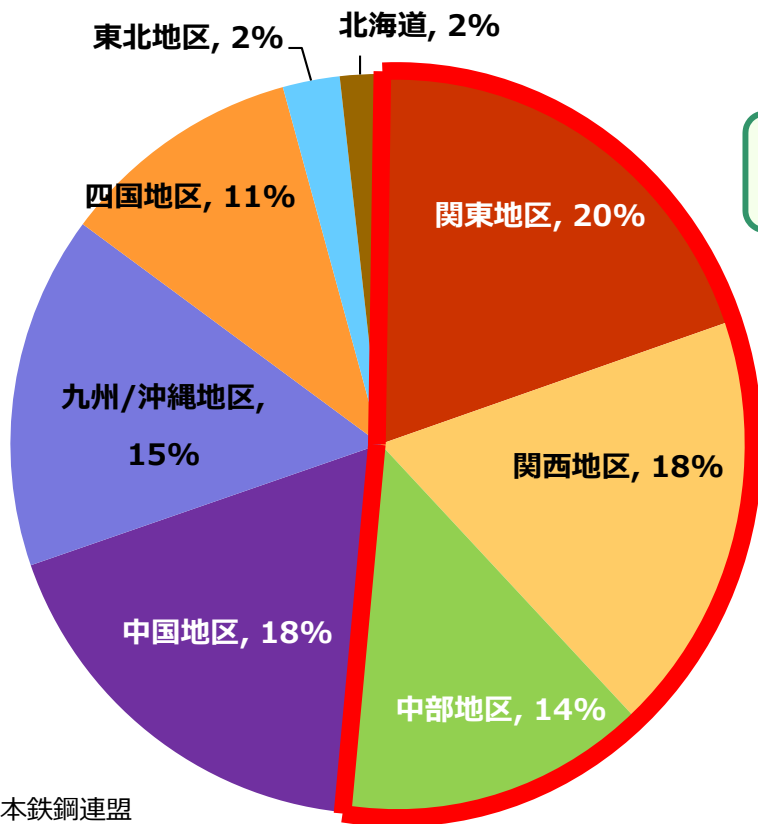


あついで未来を創ります
中部鋼板株式会社
CHUBU STEEL PLATE CO., LTD.



国内厚中板 地域別需要

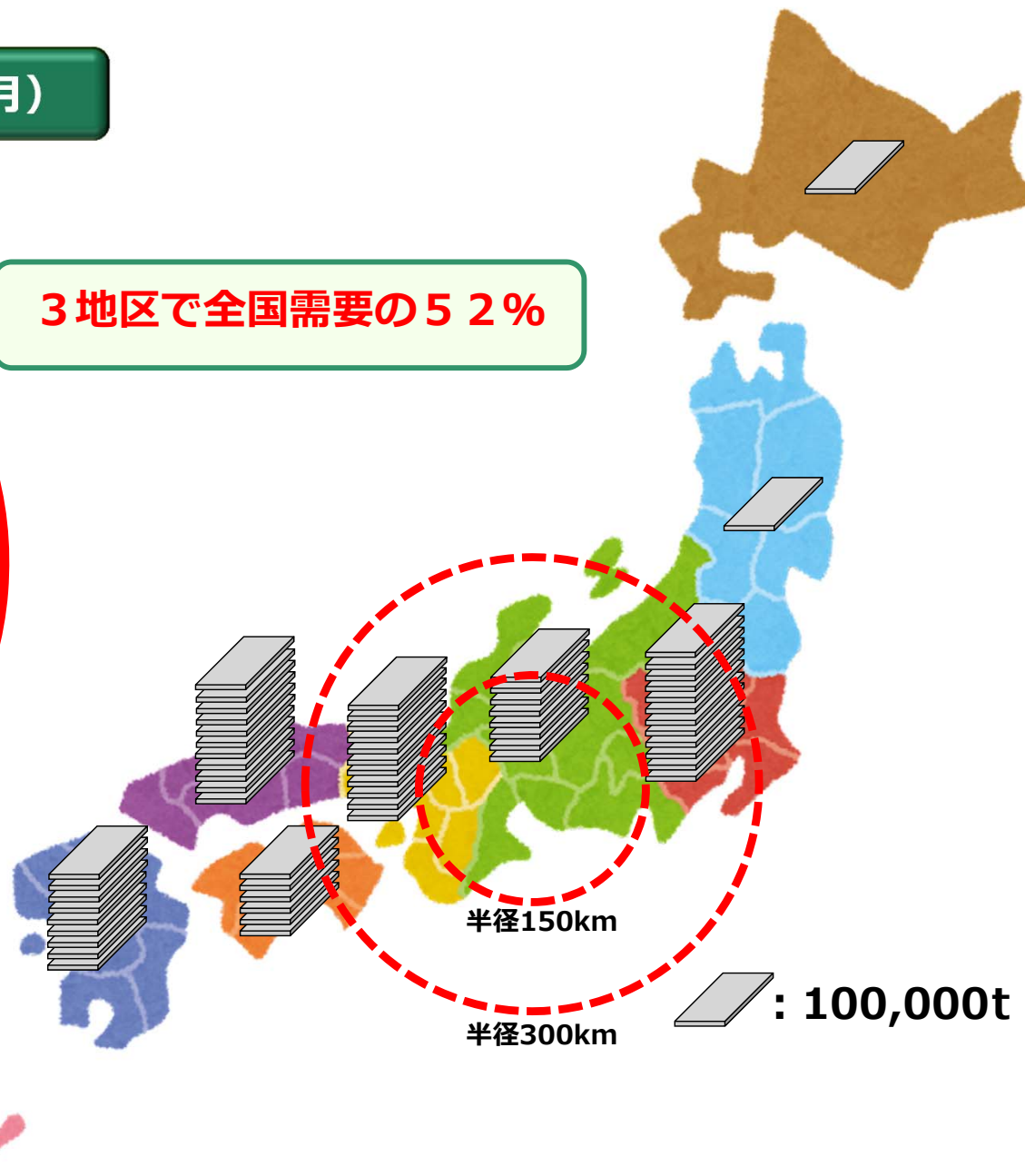
全国内需（2020年4月～2021年3月）



出所：日本鉄鋼連盟

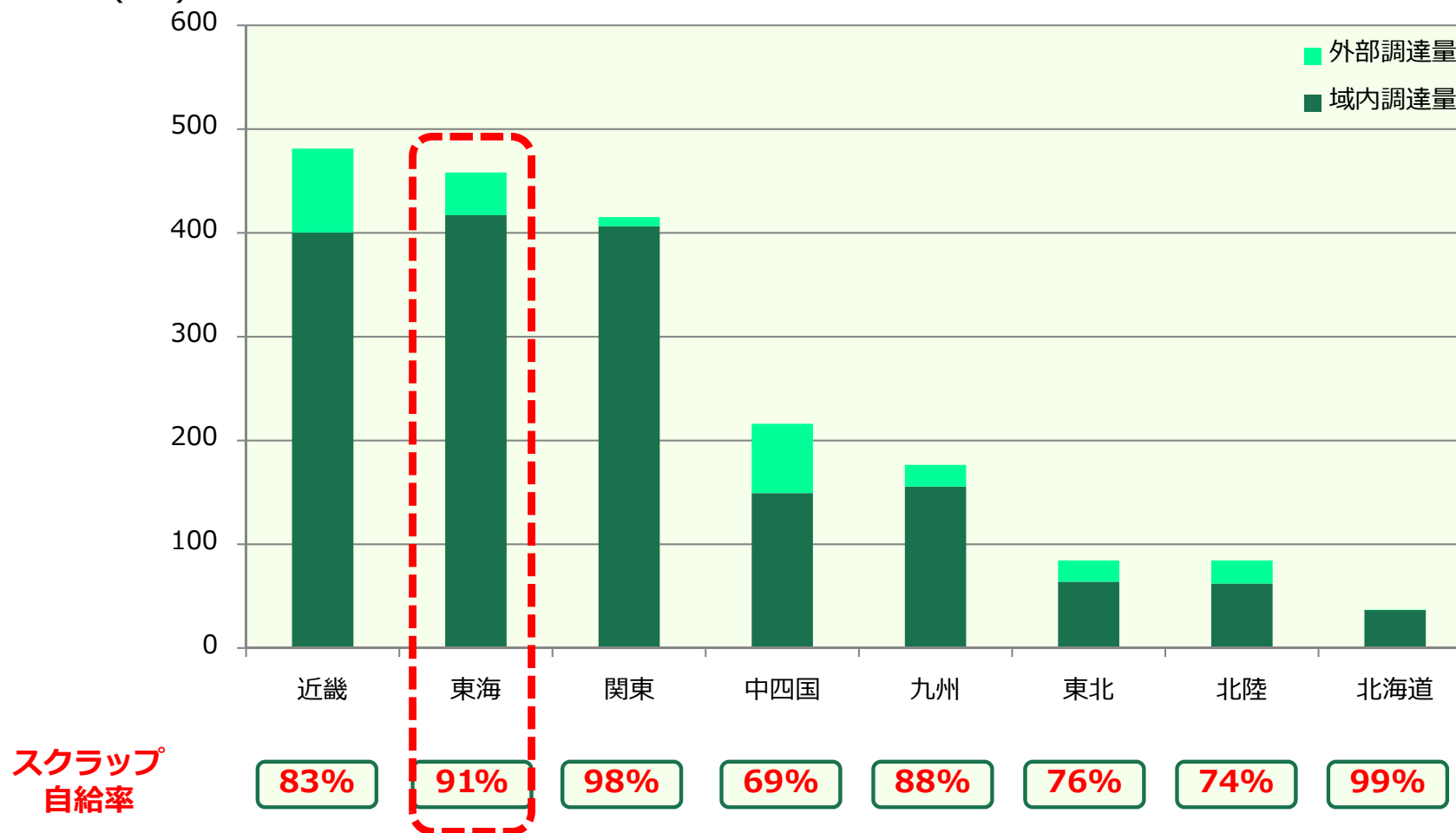
※輸出は除く

3地区で全国需要の52%



地域別購入量と地域内調達率(2020年度)

単位：(万t)



・ 近畿に次ぐ大消費地だが、使用するスクラップの大宗を域内で調達可能

出所：日本鉄源協会

厚板工場分布(厚板業界を取り巻く環境)

- ★名古屋 中部鋼板
- ①君津 日本製鉄
- ②大分 日本製鉄
- ③京浜 JFEスチール
- ④福山 JFEスチール
- ⑤倉敷 JFEスチール
- ⑥加古川 神戸製鋼所
- ⑦大阪 中山製鋼所
- ⑧小倉 東京製鉄

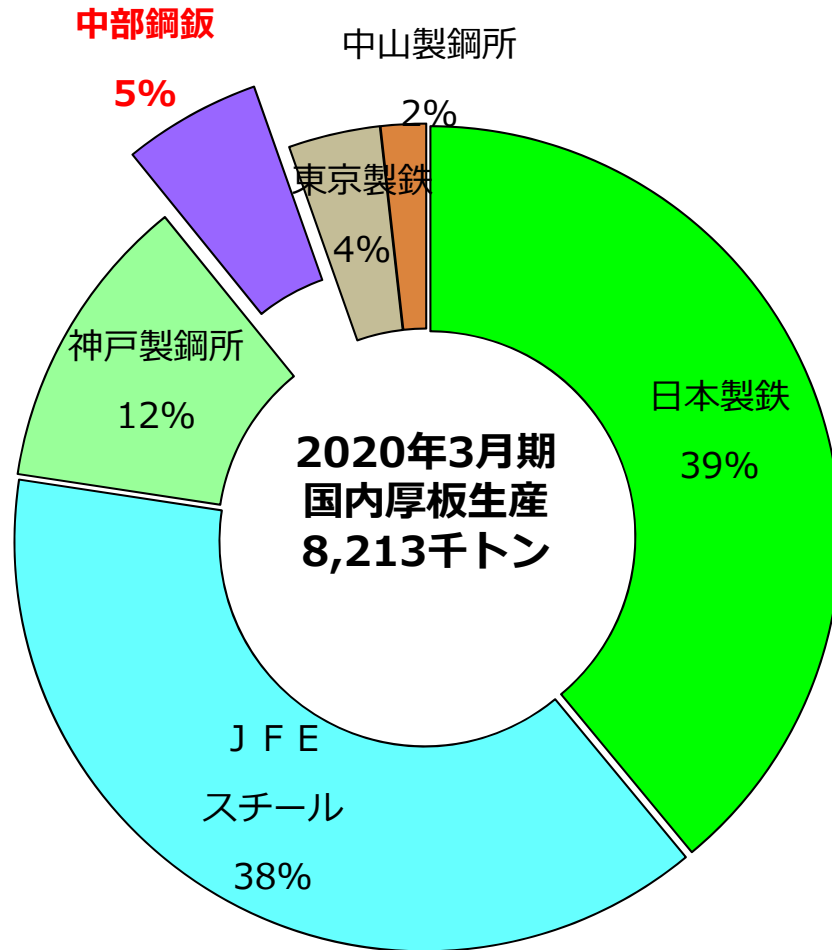


出所：日本鉄鋼連盟

§ 2 マーケット環境について

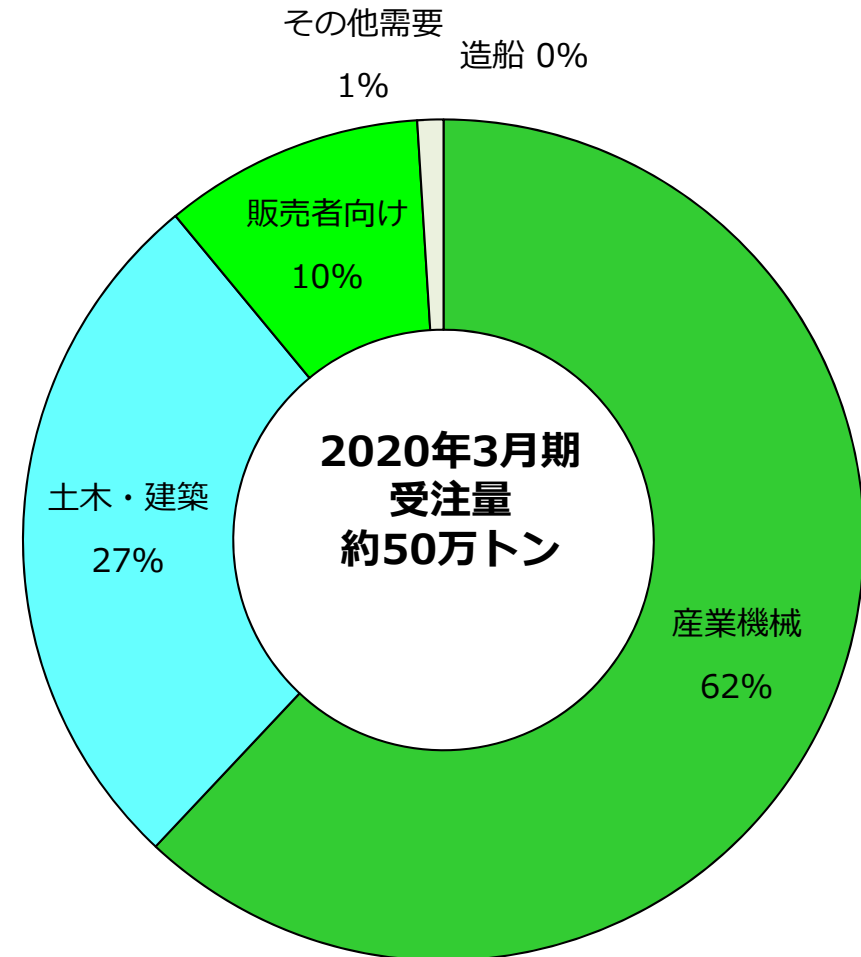
当社厚中板 用途別需要

国内生産シェア



出所：日本鉄鋼連盟

当社厚板 用途別受注



エンドユーザーヒアリングベース、輸出は僅少

中部鋼板製 厚板使用例 (産機・建機)



産業機械



建設機械



自動車
(フレーム)



鉄道車両
(台車)

大阪堂島 A商業施設



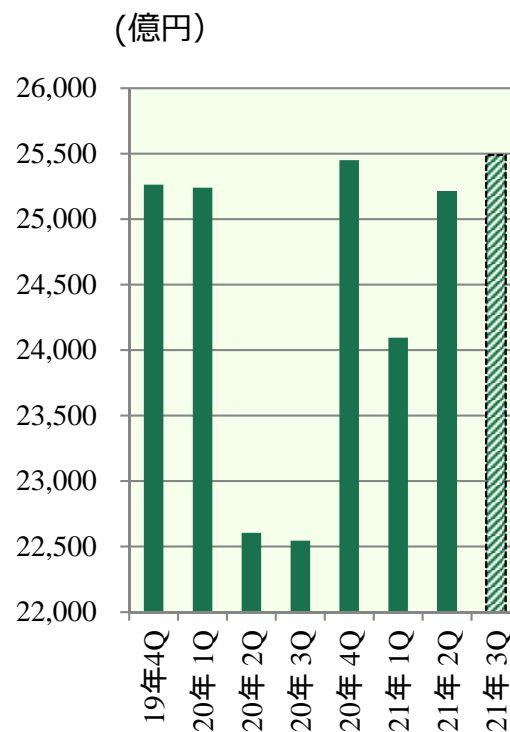
延床面積 14,310m² (鉄骨使用量 : 2,500t)

今後の厚板需要見通し

用途	方向感	販売比率
産機 建機	▲	62%
土木 建築	▲	27%
造船	→	僅少
輸出	▼	僅少

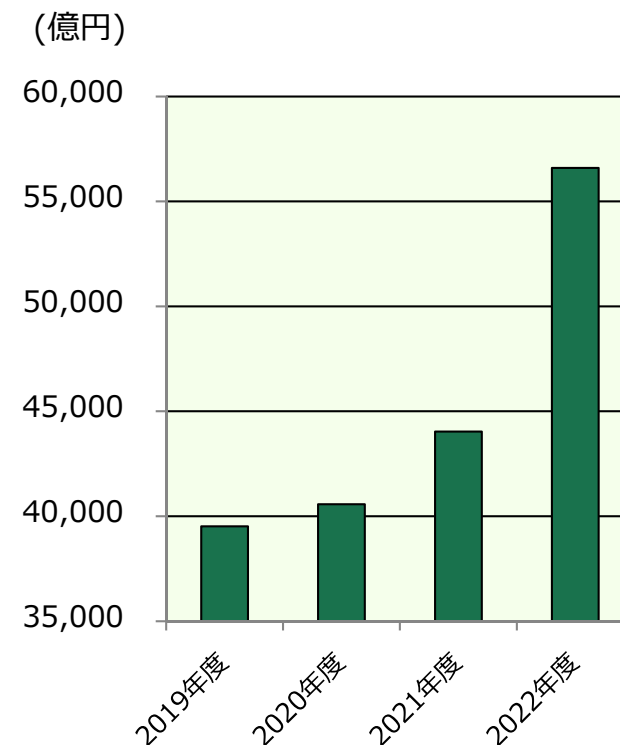
産業機械

機械受注統計 (船舶・電力除く民需)



土木建築

国土強靱化関連予算額



コロナ禍による前年の大幅な減少から回復基調。

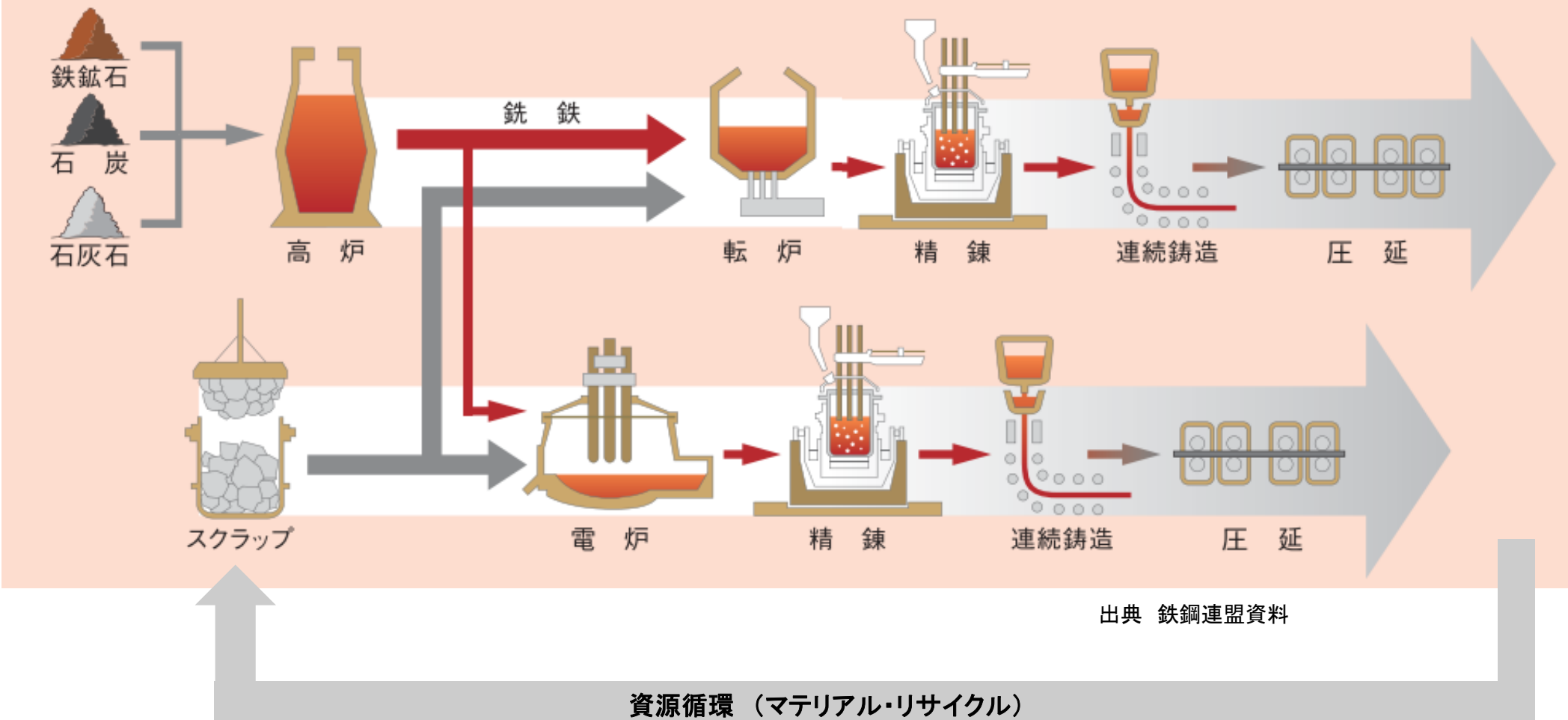
'20年の落ち込みから回復し、堅調な需要を見込む。

公共工事は災害対策関連の予算増強が織込まれ、それと共に鉄鋼需要も伸長が予想される。

§ 3 電炉プロセスと 高炉プロセス

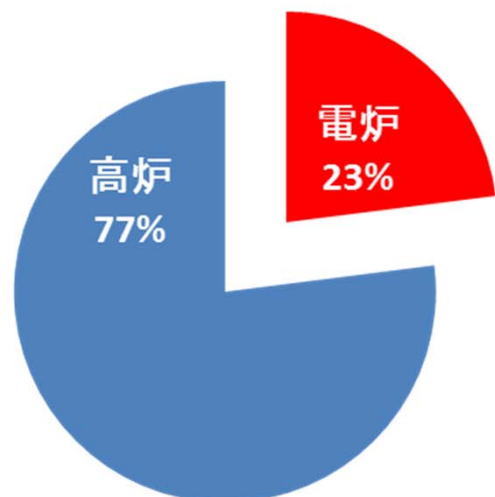
鉄鋼製造プロセス（鉄源工程）

鋼材の製造プロセス

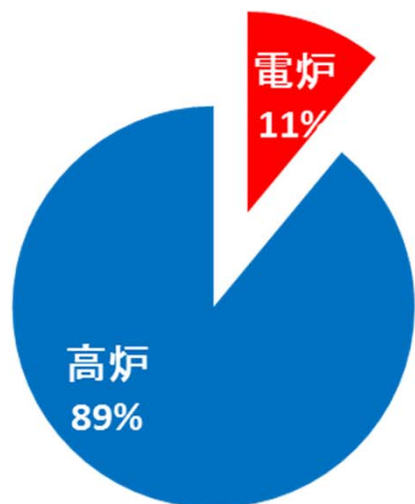


'20年度実績

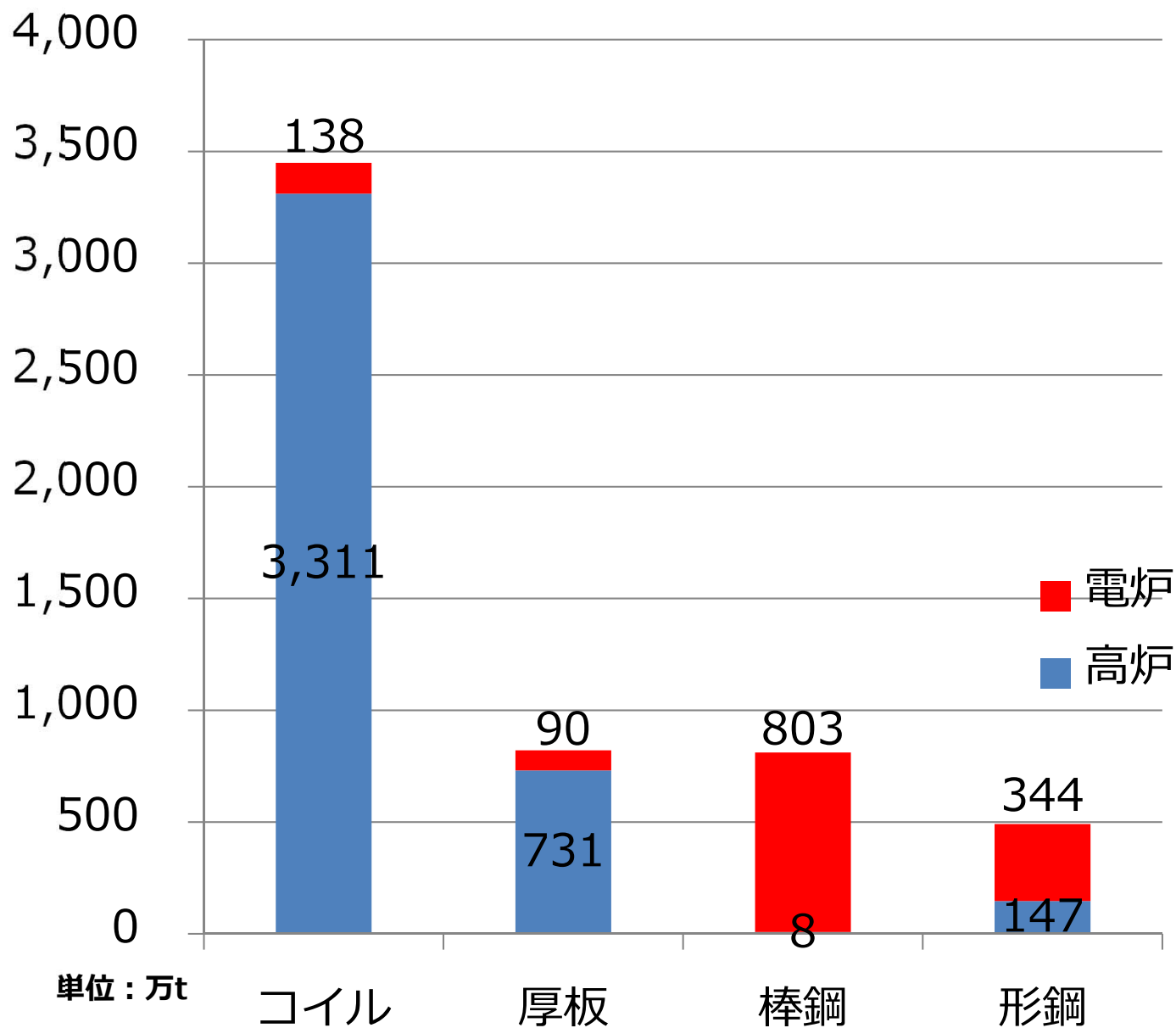
普通鋼粗鋼



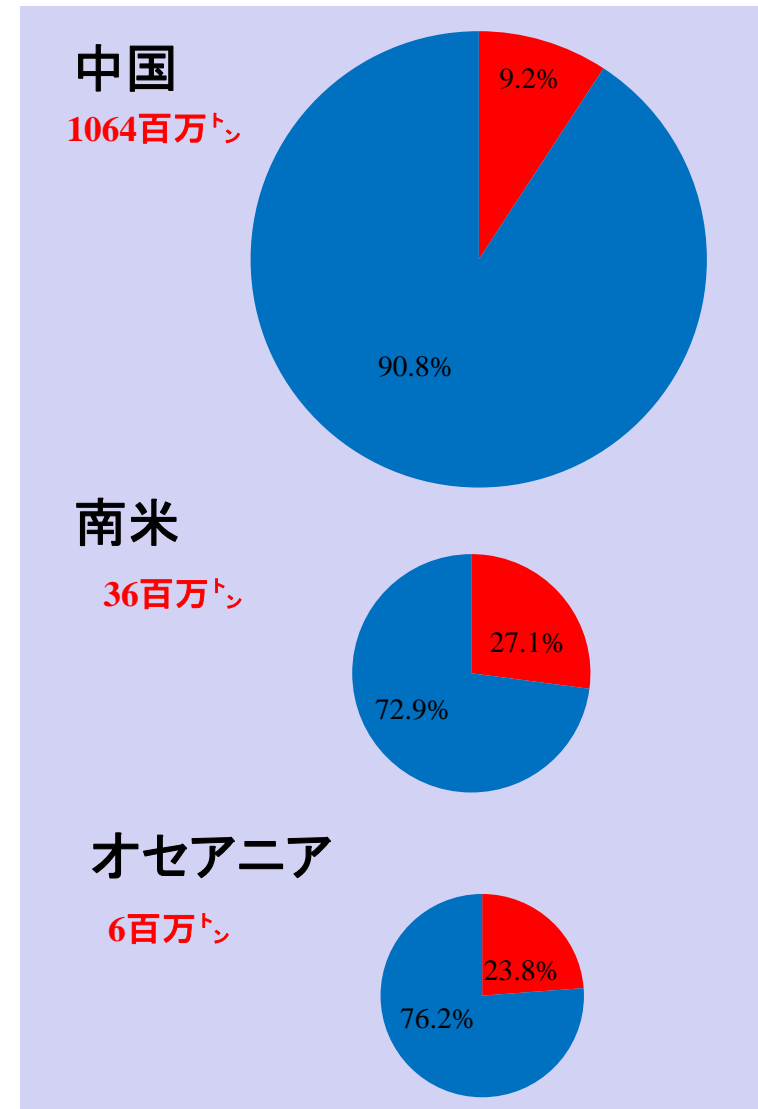
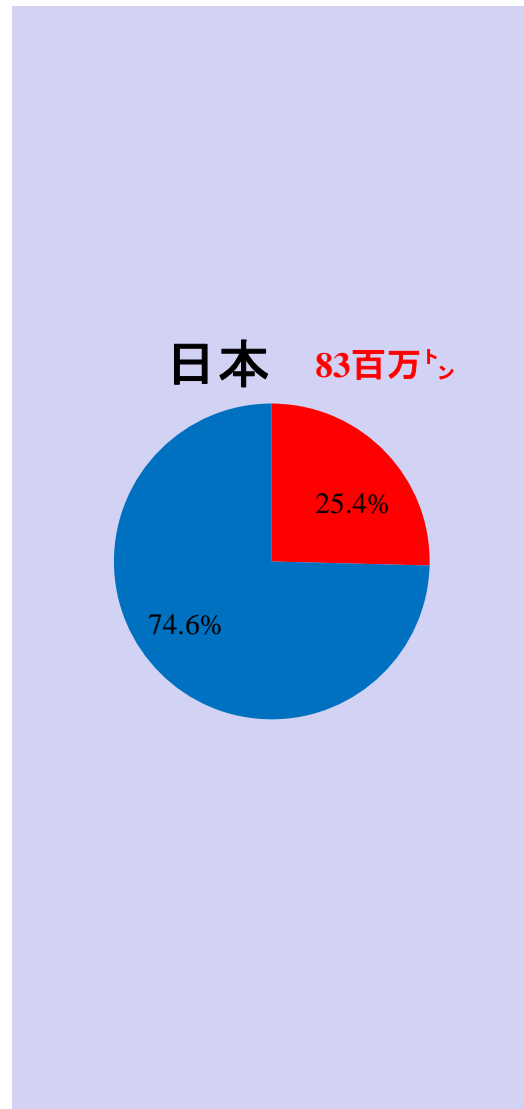
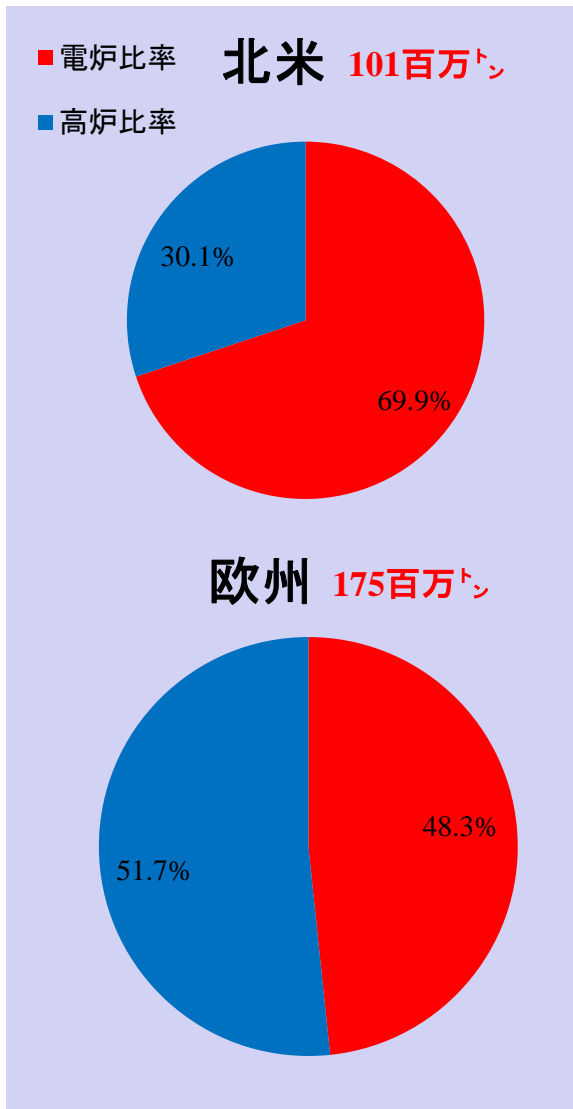
厚板



普通鋼品種別生産量



'20年世界主要地域炉別粗鋼生産比率（特殊鋼含む）



出所：日本鉄源協会データに基づき中部鋼板作成

■ 現電気炉

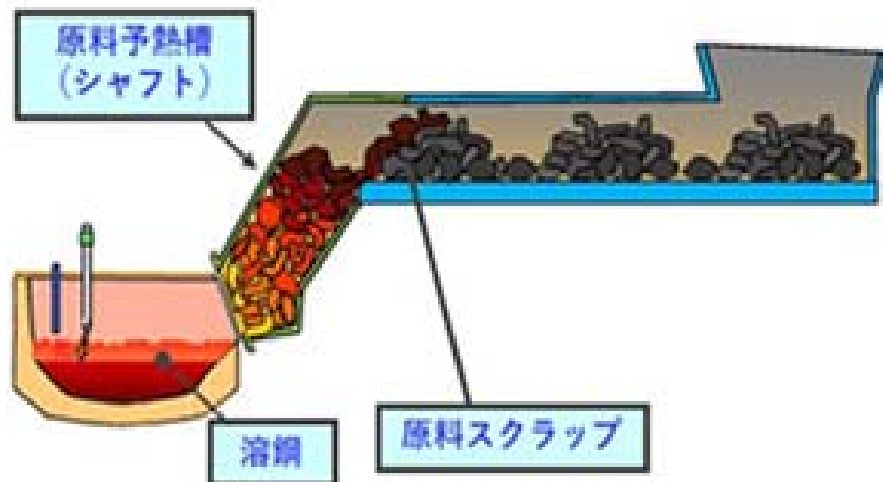


バッチ操業によるエネルギーロス

■ 新電気炉



ECOARC-FIT™



連続操業による環境対応力強化

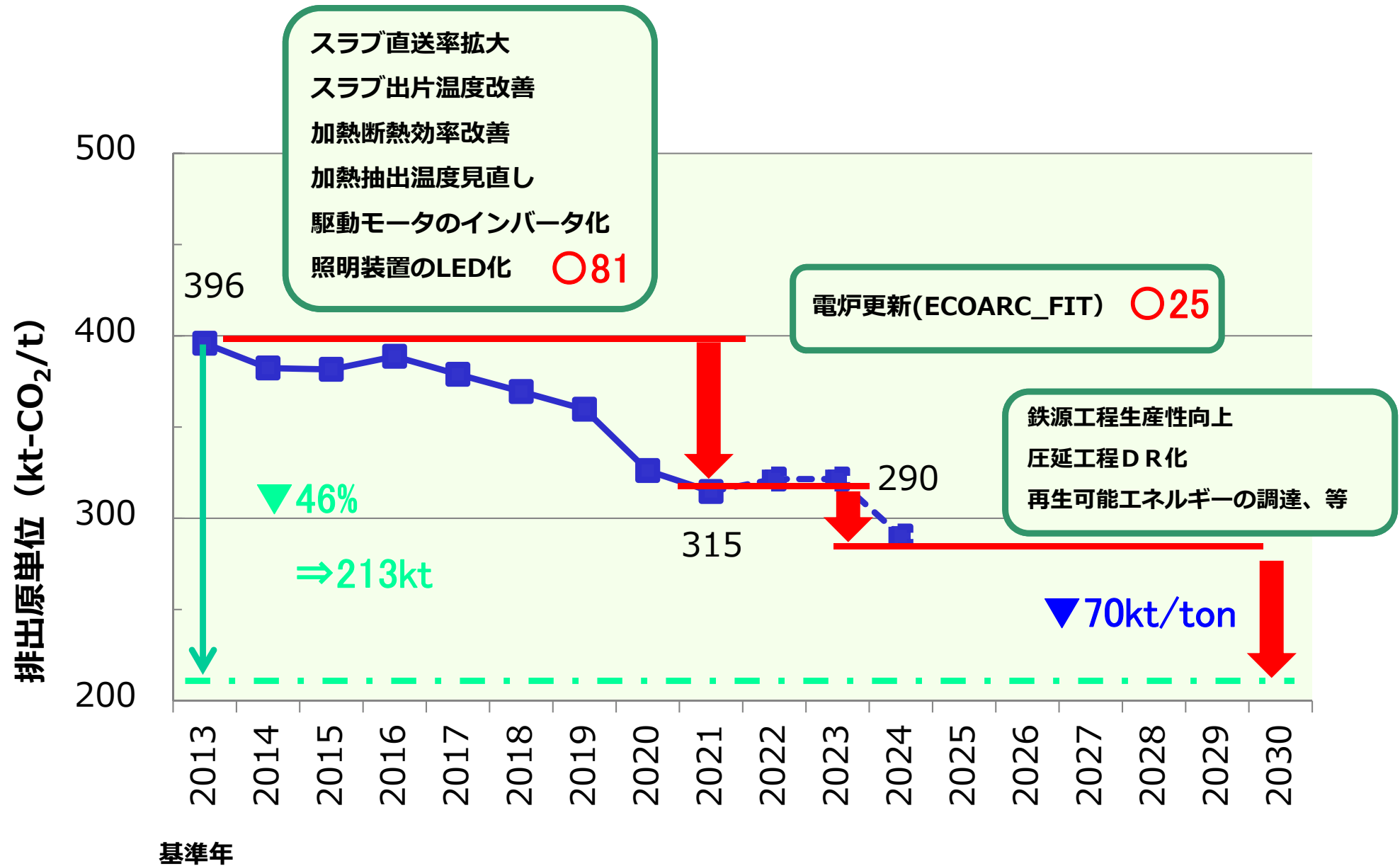
電力原単位 ▲ 15%

騒音レベル ▲ 10%

ダスト発生量 ▲ 20%

* 電力原単位はメーカー予測値
その他は当社予測値

当社のCO₂排出原単位 (排出量/製造ton)



§ 4 中期経営計画

循環型社会への貢献（スクラップリサイクル）

成長戦略の推進

持続可能な基盤整備の推進

ESG/SDGs 課題に対する取組の強化

(株)中山製鋼所との業務提携の推進



	18中期目標	18～20年度実績	21中期目標
販売数量※	60万トン	61万トン(18年度)	70万トン
連結経常利益	40億円	47億円(19年度)	40億円
連結配当性向	25%	每期目標達成	30%

※18中期は厚板販売量、実績・21中期目標は鉄鋼製品販売量（含むスラブ）

厚板製品の受委託

中山製鋼所から中部鋼板へ厚板製造委託を開始

スラブの受委託

鋼種と数量の拡大

カーボンニュートラルに向けた協働活動

輸送および購買での相互協力

グループ商事部門の提携

製造部門による定例会議

'22年3月期第2四半期実績

第2四半期業績（連結）の概要

売上高

266 億円 （※前期比 85 億円増）

増収要因

鉄鋼関連事業で、主需要先である産業機械・建設機械向けの鋼材需要が回復。

経常利益

7 億円 （前期比 8億円減）

減益要因

販売数量が増加し、販売単価も前年を上回った一方で、鉄スクラップ価格が高騰。

※2022年3月期より、収益認識会計基準を適用した会計方式に変更しております。

前期と単純比較すると、売上高が一部の子会社で減少する形になります。

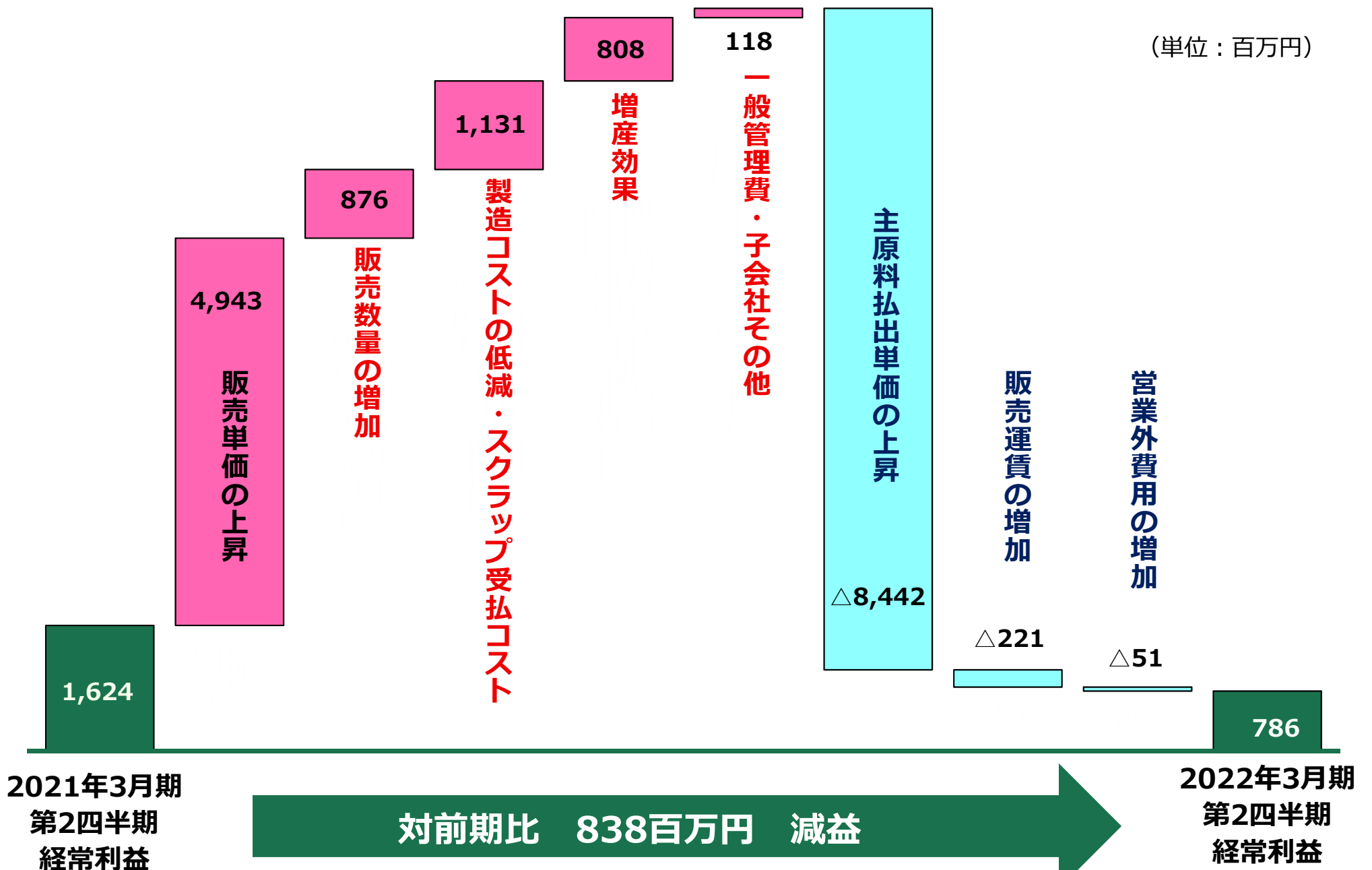
よって、売上高増減は参考値とします。尚、営業利益、経常利益、当期純利益に与える影響はありません。

第2四半期業績（連結）

(単位：百万円)

	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	増減	増減率
売上高	18,178	26,643	(※) -	-
営業利益	1,678	881	△797	△47.5%
経常利益	1,624	786	△838	△51.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	962	499	△463	△48.1%
1株当たり 当期純利益 (円)	34.88	18.08	△16.8	△48.2%

経常利益対前期比増減分析（連結）



セグメント別実績

(単位：百万円)

	2021年3月期 第2四半期		2022年3月期 第2四半期		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
鉄鋼関連事業	16,747	1,556	25,363	714	(※) -	△842
レンタル事業	300	9	326	22	+26	+13
物流事業	1,528	110	421	105	(※) -	△5
エンジニアリング事業	1,114	△35	927	△0	△187	+35
セグメント間取引消去	△1,512	37	395	39	(※) -	+2
連結合計	18,178	1,678	26,643	881	-	△797

財務状況（連結）

(単位：百万円)




		2021/3末	2021/9末	増減
資産の部	現預金	7,764	8,944	+1,179
	売上債権	12,394	16,043	+3,648
	有価証券	15,502	12,900	△2,601
	棚卸資産	7,477	7,486	+9
	有形固定資産	19,305	18,736	△568
	その他	7,022	7,018	△4
資産合計		69,466	71,128	+1,661
負債の部	仕入債務	4,337	4,918	+580
	固定負債	1,057	1,089	+32
	その他	1,302	2,002	+699
	負債合計	6,697	8,010	+1,313
純資産の部	株主資本	61,350	61,581	+231
	その他	1,418	1,536	+118
	純資産合計	62,768	63,117	+348
負債純資産合計		69,466	71,128	+1,661

キャッシュフロー（連結）





(単位：百万円)

	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	増減
税金等調整前当期純利益	1,533	786	△746
減価償却費	1,282	1,243	△39
売上債権の増減（△は増加）	431	△ 3,648	△4,080
棚卸資産の増減（△は増加）	295	△ 9	△304
仕入債務の増減（△は減少）	323	580	+256
その他	△1,246	17	△1,263
①営業活動によるキャッシュ・フロー	2,618	△1,031	△3,649
②投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,296	3,788	+5,084
配当金の支払額	△552	△ 275	+276
その他	△0	△ 0	—
③財務活動によるキャッシュ・フロー	△553	△277	+276
現金及び現金同等物の期末残高	14,579	14,244	△335

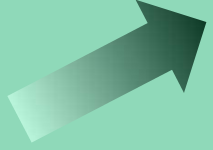
'22年3月期通期業績見通し

	'21年度比 方向感	
数量		鉄鋼関連市場での国内需要回復により販売数量は前年度を上回る見通し。
単価		販売価格の値上げを進めており、'21年度下期の値上げ浸透により、通期では前年度を上回る見通し。
売上高		数量・単価ともに前年度を上回り、売上高は大きく増加する見通し。

原材料・エネルギーコストの動向

	'21年度比 方向感	
スクラップ		'20年度下期よりスクラップ価格が大幅に値上がりし、今期も引き続き高止まりの方向
副資材		世界的な需要の高まりにより合金鉄等の副資材は値上がりする見通し。
電力		'20年度は若干上昇し、今期は更に単価が上昇する見通し。
LNG		'20年度に上昇、今期についても前年度を上回る見通し。

コスト・利益見込み

	'21年度比 方向感	
売上高		数量増・単価上昇により大幅増収
売上原価		スクラップ ^o ・諸資材単価の上昇により増加
販売費及び 一般管理費		販売数量の増加により販売運賃増加
営業利益		営業原価の上昇はあるも、増益は確保

鉄鋼関連事業

主要製品である厚板は産業機械・建設機械向け需要の回復により増収
原料や資材の高騰はあるも、それを上回る販価上昇を見込み増益

レンタル事業

コロナ影響は残るも、既存需要家への拡販や新規顧客の取込等で増収
営業活動拡大による販管費の増加などで減益

物流事業

危険物倉庫はリチウムイオンバッテリー関連の取扱が引き続き好調を維持
運送部門でも鉄鋼需要回復による取扱量増効果を見込み増益

エンジニアリング事業

コロナ影響による設備投資案件、修繕工事案件の減により減収
組織のスリム化等を進め、原価削減を見込み増益
ベトナム事業は売却完了(12月)。 今後は国内事業に経営資源を集中

売上高

661 億円（※前期比 258億円増）

増収要因

国内外での厚板需要の回復を背景に、販売数量・販売単価とも前期を上回る見通し。

経常利益

53 億円（前期比 28億円増）

増益要因

販売価格の是正が進み、スクラップ及び資材単価上昇分のコスト吸収が可能となり、販売数量増加効果と合わせ、前期比で大幅増となる見込み。

※2022年3月期より、収益認識会計基準を適用した会計方式に変更しております。

前期と単純比較すると、売上高が一部の子会社で減少する形になります。

よって、売上高増減は参考値とします。尚、営業利益、経常利益、当期純利益に与える影響はありません。

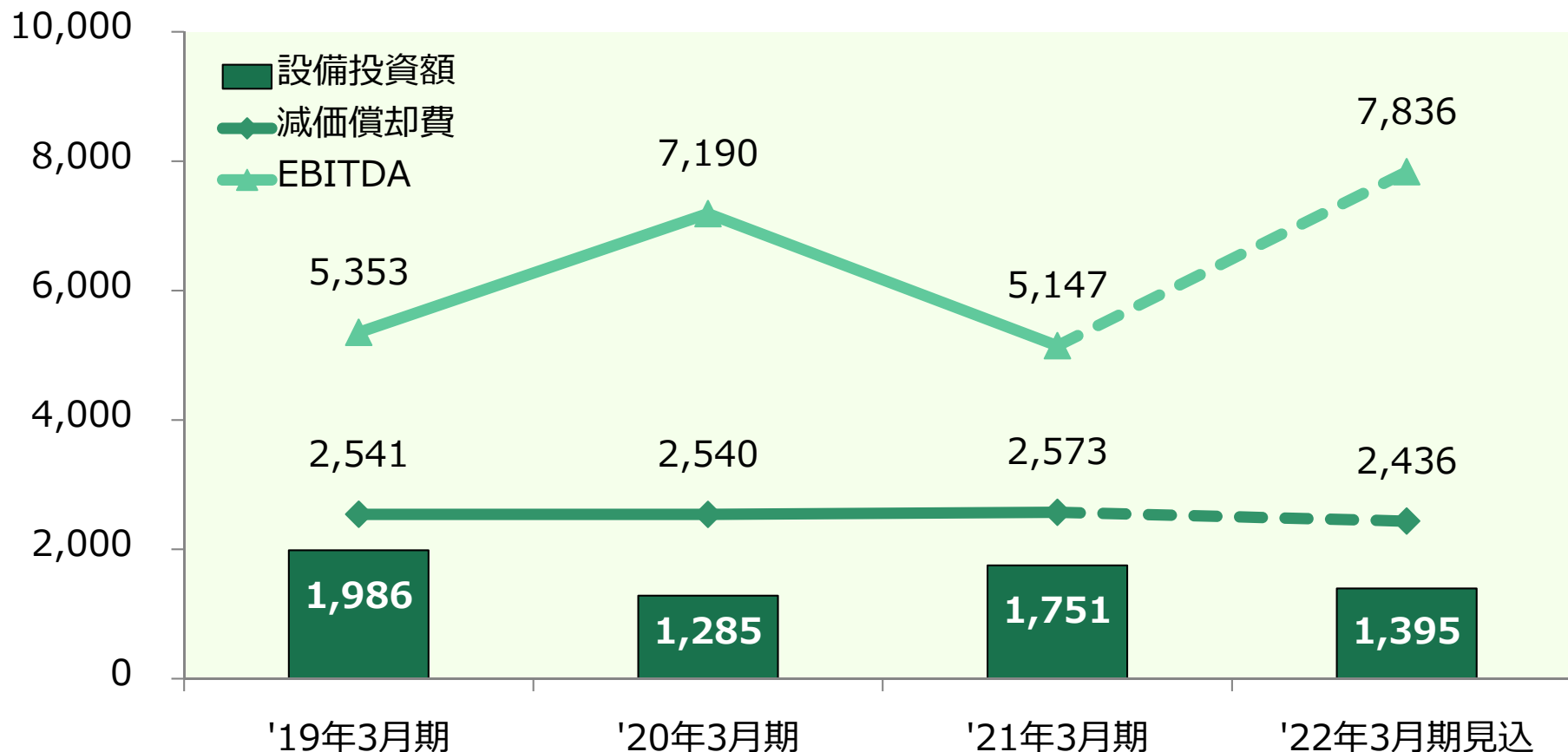
'22年3月期 連結業績見通し

(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期 見通し	増減	増減率
売上高	40,327	66,100	(※) -	-
営業利益	2,574	5,400	+2,826	+109.7%
経常利益	2,532	5,300	+2,768	+109.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,593	3,400	+1,807	+113.4%
1株当たり 当期純利益 (円)	57.74	123.14	+65.40	+113.4%

設備投資・減価償却費見通し（連結）

(単位：百万円)



'22年3月期
主な投資

受電所高周波フィルター更新

連続鋳造機セグメント老朽更新

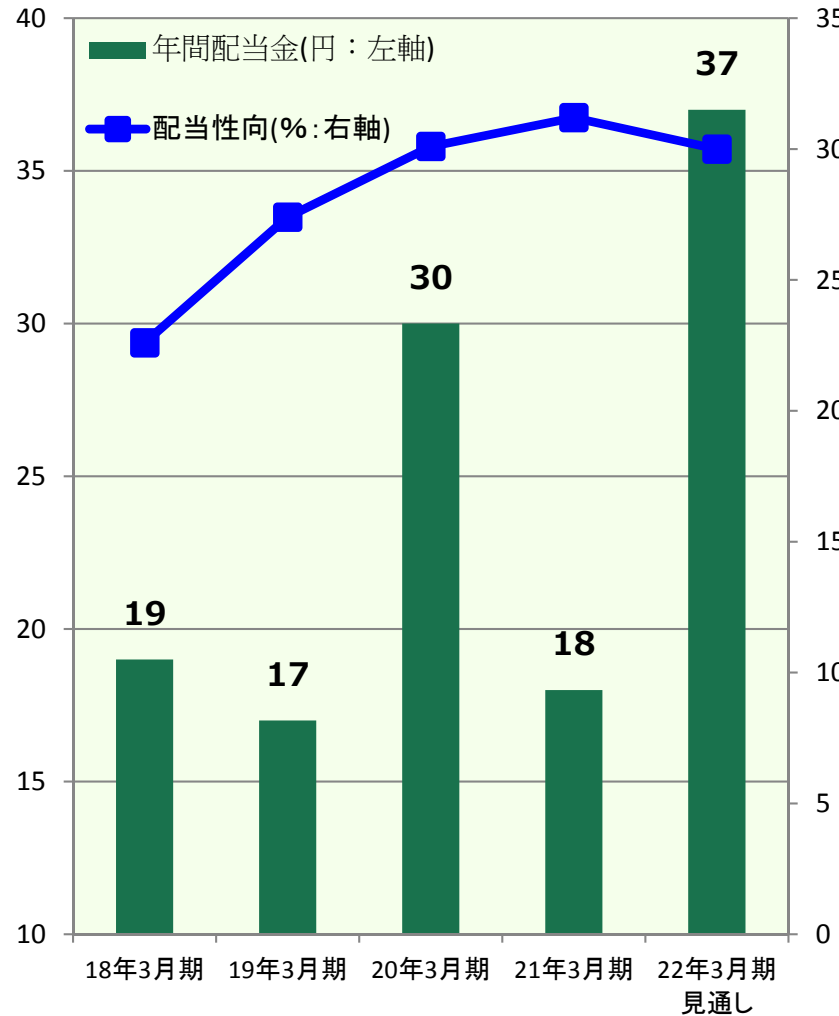
加熱炉耐火物更新

排ガス水冷ダクト老朽更新

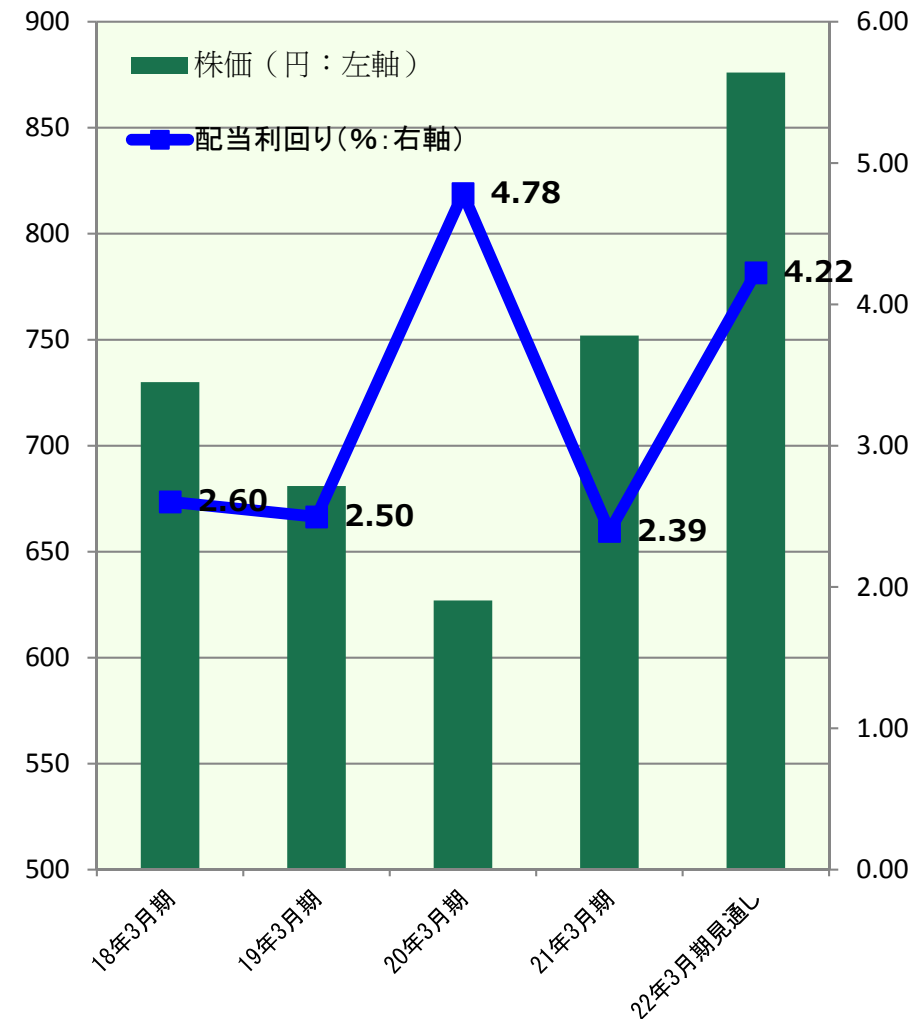
'21年3月期 通期	炉自動燃焼制御の導入 加熱炉自動制御化：燃料使用量削減	30百万円
	スクラップヤードランウェイガードの更新 クレーンガード老朽更新：保全	190百万円
	受電変電所設備の更新 受電設備老朽更新：生産性向上	610百万円
'22年3月期 第2四半期	板厚制御装置の更新 制御装置老朽更新：品質向上	290百万円
	圧延ライン自動化システムの更新 搬送制御装置老朽更新：生産性向上	230百万円
	業務ネットワーク機器の更新 通信機器老朽更新：高速化、安全性能向上	20百万円

'22年3月期 配当予想

配当と配当性向



株価と配当利回り



※株価は9月末基準、但し22年3月期は12/16時点

ご静聴
ありがとうございました

あつい心で未来を創ります



中部鋼板株式会社

